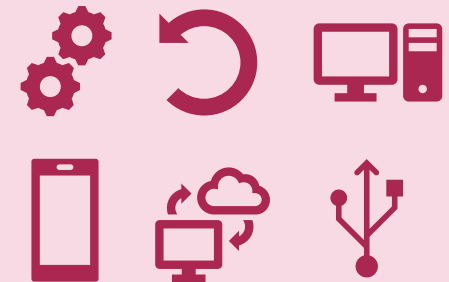
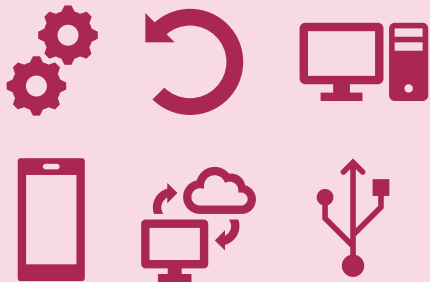


令和5年度版

園務改善のための ICT化事例集

全8例



目次



- 1 はじめに
- 2 県内私立幼稚園の現状
- 3 園務支援システムの主な機能
- 4 各園の事例紹介（あいうえお順）
- 5 結びに

事例紹介（全8園）

- 1 大沢幼稚園（越谷市）
- 2 桜美林幼稚園（さいたま市緑区）
【幼稚園型認定こども園】
- 3 籠原若竹幼稚園（熊谷市）
- 4 片柳幼稚園（さいたま市見沼区）
- 5 きぞろ幼稚園（川口市）
- 6 双恵幼稚園（さいたま市浦和区）
【施設型給付を受ける幼稚園】
- 7 つつじ幼稚園（戸田市）
- 8 三ヶ島幼稚園（所沢市）

1 はじめに

こんな困りごとはありませんか？



幼稚園

- 1 保護者からの欠席連絡が集中するため、電話回線がパンクし、対応に支障をきたしている。
- 2 電話対応に時間を取られ、本来の業務である子どもに対応する時間が減ってしまう。
- 3 預かり保育の利用時間の管理や利用料の計算に手間取っている。

保護者

- 1 欠席の連絡を電話でしようとしても、特に朝方は幼稚園となかなか連絡が取れない。
- 2 幼稚園からのお便り（紙媒体）を子どもが紛失し、保護者に情報が届かない。
- 3 預かり保育の利用のたび現金を徴収され、手間に感じている。

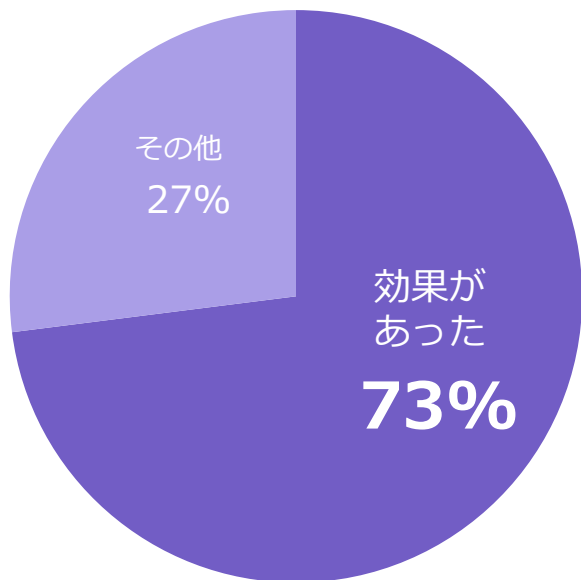
➡ 園務のICT化により、改善が期待されます。



2 県内私立幼稚園の現状

ICT化した幼稚園の**効果**

園務のICT化をした1年後には
その効果を実感する幼稚園が、
全体の73%



平成30年度私立幼稚園ICT化支援事業補助金の交付を受けている園に対して行った、ICT化による業務改善に関するアンケートの回答結果（令和2年2月実施）

ICT化には興味があるが
「どうすればよいかわからない」

他園の活用事例には 改善の**ヒント**がたくさん



次ページからは、
園務支援システムの概要や
ICT化に取り組む幼稚園の実例を紹介します。

園務改善に取り組みたいけれども、
どこから始めるべきか、
どう取り組むべきか分からないといった際に、
本紙をお役立てください。

3 園務支援システムの主な機能

01 園児台帳系システム

- ・ 園児基本台帳の作成
- ・ 臨時休園等の一斉配信
- ・ 保育料の計算・請求管理

02 指導要録等 作成支援系システム

- ・ 指導要録、指導計画の作成
- ・ 日常の子どもの活動記録

03 登降園 管理系システム

- ・ 欠席連絡受付
- ・ 園バス位置情報の発信
- ・ 園児の登降園管理

※01～03を網羅するシステムを
「統合型支援システム」として紹介

園務のICT化のイメージ



出典：埼玉県5か年計画～日本一暮らしやすい埼玉へ～
(令和4年度～令和8年度)

4 各園の事例紹介

保護者のニーズに応じて、デジタルとアナログを使い分け



CASE ①

大沢幼稚園

幼稚園基本情報

- ・認可定員 420名
- ・令和4年度 8クラス
- ・越谷市大沢578-1
- ・<https://www.ohsawa-kg.ed.jp/>
- ・1970年開園

導入した主なICTシステム

	No.1 動画配信システム	No.2 統合型支援システム
内容	生活発表会、誕生会等を保護者に動画配信	あらゆる情報を一元管理 ・保護者がアプリから出欠連絡 ・保育料の計算、請求業務 ・指導要録の作成 等
イメージ図		
導入時期	令和2年度頃	令和2年度頃
初期導入費用	特になし	特になし
ランニングコスト	月額8,000円程度	月額32,000円程度
同時に購入した機器等	タブレット1台 スマートフォン1台	パソコン8台 全館Wi-Fi整備

No.1 動画配信システム



コロナ禍で来園者数を制限。保護者に幼稚園での子どもの様子を知らせてもらうため、**行事の様子等を動画配信**した。

保護者が子どもの様子を知ることができ、人数制限への理解を得られた。



No.2 統合型支援システム

市の補助事業活用に伴い、**預かり保育の業務量が増大**。これまでの管理方法では限界があると思い、導入を決意。

◆ アプリの出欠情報がシステムに反映されるため、**職員間での情報共有がスムーズ**に。

◆ 保育料の請求業務もICT化したため、**窓口での現金取扱い業務がなくなった**。



事務長インタビュー



- ・システムの導入前は、保護者からの連絡を電話で受けていたため、朝は欠席連絡が集中し、職員が対応に追われていました。電話回線がふさがることで、保護者にご迷惑をおかけすることも多々あったと思います。
- ・アプリで連絡を受け付けるようになってからは、保護者との双方のやり取りがスムーズになり、業務改善につながりました。
- ・保育料の計算から銀行引き落としの手続きまで、システムで一括して管理できるため、窓口で現金をやり取りする手間・保育料の手計算に要していた時間を削減できました。
- ・業務の効率化をしつつ、保護者のニーズに応じて、アナログとデジタルを併用していきます。

システムを知る

他園の事例を知る

まとめ

桜美林幼稚園

幼稚園基本情報

- ・幼稚園型認定こども園
- ・利用定員 175名
- ・令和4年度 6クラス
- ・さいたま市緑区芝原3-24-5
- ・<http://www.oberin.jp/>
- ・1980年開園



システムを知る

他園の事例を知る

まとめ

導入した主なICTシステム

	No.1 バス位置情報システム	No.2 統合型支援システム
内容	園バスの位置情報をアプリから閲覧可能	あらゆる情報を一元管理 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者がアプリから出欠連絡 ・保育料の計算、請求業務 ・指導要録の作成 等
イメージ図	 保護者配布用チラシ →スマホアプリの ダウンロード方法を 案内	 バーコードリーダーで、 バーコードをスキャン
導入時期	平成14年度頃	令和元年度頃
初期導入費用	特になし	特になし
ランニングコスト	月額15,000円程度	月額38,500円程度
同時に購入した機器等	スマートフォン数台	・タブレット ・バーコードスキャナー



No.1 バス位置情報システム

バスの遅延情報の電話連絡に大幅な時間を要していたため、**バスの位置情報や運行状況をアプリを通じて保護者に共有**する形にした。

運行情報等をリアルタイムに配信することで、バス待ちの保護者がゆとりを持ってバスを待つことができるようになった。



No.2 統合型支援システム

幼稚園型認定こども園への移行に伴い煩雑化した預かり保育利用時間の管理のため、**バーコードを利用した管理方法を導入した。**

- ◆園児ごとのバーコードを保護者に配布
- ◆降園時に保護者がバーコードリーダーでスキャンすると、システムに利用時間が反映
- ◆利用時間の管理が大幅に改善されるとともに、タブレットに降園時間が表示されるため、**保護者と利用時間を共有することも可能**になった。



園長インタビュー



・幼稚園型認定こども園への移行に伴い、預かり保育の利用時間等の管理業務が大幅に増加しました。

・どのようなシステムを使用すればいいか悩んでいたところ、園舎建て替えの際に見学した幼稚園で導入していたシステムに興味を持ち、自園に合うシステムを調べてみました。

・当時は保育園向けのシステムが多かったですが、幼稚園向けのシステムであった点、改善要望を反映したシステムの改修をしてもらえることなどから、業者を決定しました。

・幼稚園型認定こども園になってからは、市町村に提出する書類が多く、管理の大変な点もありますが、保護者の理解を得ながら、ICT化に取り組んでいます。

必要なシステムを、
学校法人で独自に開発

CASE
③

籠原若竹幼稚園

幼稚園基本情報

- ・認可定員 440名
- ・令和4年度 14クラス
- ・熊谷市籠原南1-134
- <https://www.wakatakegakuen.com/kagohara/index.htm>
- ・1967年開園




システムを知る

他園の事例を知る

まとめ

導入した主なICTシステム

法人独自開発システム	
内容	<ul style="list-style-type: none">・園児の出欠管理・預かり保育の利用状況管理・園児情報の蓄積→各種調査・照会に対応可能
イメージ図	 システム操作画面
導入時期	平成25年度頃
初期導入費用	特になし
ランニングコスト	特になし
同時に購入した機器等	パソコン数台



No.1 法人独自開発システム

預かり保育の1日当たりの利用者が100人を超えたため、電話連絡への対応業務が増大していた。

保護者がホームページ内のシステムにアクセスすれば、欠席連絡等の情報を入力できる仕組みを作り、業務改善を図った。

◆システムから随時、欠席連絡等を登録できるため、保護者の利便性が向上した。

◆市役所に提出する無償化関係書類に必要な情報もシステムから抽出可能で、作成業務の時間を大幅に削減できた。



預かり保育の利用実績や、欠席連絡の管理方法等を操作手続きにまとめ、職員がシステムを使用しやすいよう工夫

事務長インタビュー



- ・現場に合ったICT化を進めたいという想いから、法人独自のシステムを開発しました。
- ・法人のホームページ上に、システムへのアクセス先を設定することで、ランニングコストを削減しています。
- ・また、利用マニュアルを作成し、全ての職員が対応できるような体制を整えました。
- ・指導要録等は今でも手書きで作成しています。完全デジタル化に踏み切るのではなく、現場のニーズに応じたICT化を進めていきます。

事務作業は極力ICT化
子どもとかかわる部分は
アナログでぬくもりを

CASE
④

片柳幼稚園

幼稚園基本情報

- ・認可定員 280名
- ・令和4年度 9クラス
- ・さいたま市見沼区御蔵5 5 6
- <https://www.katayanagiyouchien.ed.jp/>
- ・1963年開園



No.1 統合型支援システム



幼児教育の無償化に伴い、
従来の事務作業（電話での欠席連絡、利用料の手計算等）では対応が困難になることが見込まれたため、
全てを一元化できるシステムを導入した。

◆ 出欠管理、バス利用の有無、預かり保育の利用時間の管理、利用料の計算・請求業務、保護者への一斉連絡、バス位置情報サービス等々が、**1つのシステムでできるようになったことで、園としては業務改善、保護者としては利便性が向上した。**

◆ 検温の結果をアプリに登録してもらうことで、
園児の体温管理もスムーズに実施できた。



システムを知る

他園の事例を知る

まとめ

導入した主なICTシステム

統合型支援システム

あらゆる情報を一元管理

内容

- ・保護者がアプリから出欠連絡、預かり保育予約
- ・保育料の計算、請求業務
- ・指導要録の作成
- ・おたより、お知らせ、アンケートの配信
- ・バス位置情報サービス 等

(参考) システム操作画面



イメージ図

導入時期

令和元年度頃

初期導入費用

特になし

ランニングコスト

月額30,000円程度

同時に購入した機器等

タブレット1台

理事長インタビュー



・導入に際し、10個程度のシステムを比較検討し、さらに既に導入している園で利用状況を見学させていただきました。

・システムは長期的に使用するものなので、ランニングコストも考慮して導入しています。

・保護者がタブレットにタッチすれば、降園時間を管理できるので、利用料の計算作業も大幅に改善できています。

・事務作業等、いわゆるバックヤード的な部分はICT化による業務改善を図りつつ、実際の保育など子どもと接する部分については、引き続きアナログで対応する方針です。

「何かもっといい方法があるはず」を
モットーに業務改善を推進

CASE
⑤

きぞろ幼稚園

幼稚園基本情報

- ・認可定員 220名
- ・令和4年度 9クラス
- ・川口市木曾呂838
- ・<https://www.kizoro.ed.jp/>
- ・1968年開園





システムを知る

他園の事例を知る

まとめ

導入した主なICTシステム

	No.1 指導要録作成システム	No.2 登降園管理系システム
内容	指導要録の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・園児、教職員の出欠管理等 ・預かり保育の利用料管理
イメージ図	 <p>システムに登録された園児情報が、様式上に自動反映される。</p>	 <p>降園時にタブレットをタッチすれば、降園時間がシステムに記録される。</p>
導入時期	平成30年度頃	令和2年度頃
初期導入費用	特になし	特になし
ランニングコスト	月額9,000円程度	月額5,000円程度
同時に購入した機器等	特になし	タブレット



No.1 指導要録作成システム

手書きで作成すると時間がかかる上、修正が必要となった場合に書き直しの手間が生じていたため、電子化をすることで業務効率化を目指した。

- ◆作成時の誤字・脱字が大幅に減少した。
- ◆学籍簿や出欠の状況はシステム上のデータから自動的に作成されるため、担任が作成する箇所が減った。



No.2 登降園管理系システム

職員が計算した利用料を現金で徴収していたが、利用者の増加に伴い業務が煩雑化したため、システムを導入した。

- ◆欠席の電話連絡に対応する時間が減り、子どもに対応する時間が増えた。
- ◆バーコード決済に対応できる環境も整備し、**集金業務にかかる時間が大幅に減った。**



園長インタビュー



- ・ICT化を始めたのは平成25年度頃。保護者への一斉メール配信やバス位置情報の発信のために、システムを導入しました。
- ・その後、現場のニーズに応じてシステム内の機能を追加し、日々業務改善に努めています。
- ・クラスにタブレット1台を整備し、欠席情報等は随時、システムから各教員に共有しています。最近では、試験的に保護者とのやり取りにSNSアプリを利用し始めました。
- ・今後も試行錯誤を進めながら、よりよい環境づくりを目指していきます。

必要な手間は惜しまず
一部の業務をICT化

CASE
⑥

双恵幼稚園

幼稚園基本情報

- ・施設型給付を受ける幼稚園
- ・利用定員 160名
- ・令和4年度 6クラス
- ・さいたま市浦和区針ヶ谷1-21-24
<https://double-grace.com/>
- ・1946年開園

導入した主なICTシステム

	統合型支援システム
内容	あらゆる情報を一元管理 ・保護者がアプリから出欠連絡 ・保育料の計算、請求業務 ※指導要録はあえて電子化せず
イメージ図	
導入時期	令和元年度頃
初期導入費用	特になし
ランニングコスト	月額30,000円程度
同時に購入した機器等	特になし



No.1 統合型支援システム



保護者からの欠席・バス不要の連絡をメール又は電話で受けていて、対応・集計に時間を要していた。**施設型給付園への移行に伴い、事務作業が増える**ため、システムの導入を決めた。

- ◆保護者が欠席連絡等をアプリから登録できるようになり、朝の電話対応に要する時間が大幅に軽減した。
- ◆アプリから幼稚園のお知らせ（園行事等）を確認できるため、**保護者にとってもメリット**があった。



理事長インタビュー



- ・幼稚園向けのいくつかのシステムを検討し、導入を決めました。
- ・無償化で増大する事務負担に対応するためシステムを導入しましたが、園だよりやクラス便り等は今でも紙面で配布しています。
- ・時間を惜しまないことが先生の成長につながると考えており、書類作成時に漢字が分からなければ、紙の辞書で調べるよう指導しています。
- ・全てをアナログのままでは業務が回らなくなってしまうので、アナログの良さを活かせるよう、事務の一部をICT化しています。

システムを知る

他園の事例を知る

まとめ

システムを活用することで、
ペーパーレス化や情報共有を促進

CASE
⑦

つつじ幼稚園

幼稚園基本情報

- ・認可定員 315名
- ・令和4年度 9クラス
- ・戸田市元町4-2-6
<https://tsutsujii.ed.jp/#1>
- ・1965年開園





システムを知る

他園の事例を知る

まとめ

導入した主なICTシステム

	No.1 情報共有ツール	No.2 保護者への情報発信システム
内容	日誌や研修報告を電子化	・保育動画の配信 ・園だよりの作成、配信
イメージ図		
導入時期	令和2年度頃	令和3年度頃
初期導入費用	特になし	特になし
ランニングコスト	月額9,800円程度	月額8,000円程度
同時に購入した機器等	・パソコン各クラス1台 ・タブレット(約35台)	特になし



No.1 情報共有ツール

手書きで日誌や研修報告等を作成していたが、業務効率化、全職員間での情報共有を兼ねて、システムの導入を決めた。

- ◆システムからログインすれば、全職員の記録を確認でき、会議時間の短縮につながった。
- ◆紙媒体での回覧が不要となり、**紙を8割程度削減**でき、ペーパーレス化が進んだ。



No.2 保護者への情報発信システム

文字のみの園だよりを紙媒体で配布していたが、**子どもの様子をより具体的に知ってほしい**と思い、動画や写真による電子データでの配信を決めた。

- ◆教員の作る保育動画を保護者向けに配信。
- ◆写真を活用して園だよりの子ども成長記録を作成し、保護者の安心につながった。



教員インタビュー



- ・以前からICT化による業務改善に取り組んでおり、統合型支援システムは8年ほど前に導入しています。
- ・園だよりはデータ配信していますが、過渡期には紙と電子を併用することで、徐々に保護者の理解を得ることができたと思います。
- ・システムを活用することで、職員の時間外勤務を削減することもできました。
- ・幼稚園の所在する戸田市では、ICT教育が進んでいるため、最近では幼稚園でもタブレットを利用したICT教育に取り組んでいます。

三ヶ島幼稚園

幼稚園基本情報

- ・ 認可定員 320名
- ・ 令和4年度 10クラス
- ・ 所沢市三ヶ島3-1410
- ・ <https://mikajima.ed.jp/>
- ・ 1970年開園



No.1 統合型支援システム

欠席連絡や課外活動の利用連絡を電話で受けていたが、**回線がパンク状態**だった。


園児や職員情報の管理もかねて、様々な情報を一元管理できるシステムの導入を決めた。

◆バスにはスマートフォンを、各クラスにはタブレットを、先生には1人1台PCを整備することで、教職員がシステムにアクセスしやすい環境を整備

◆環境を整えることで、教職員の利便性が向上。**時間外勤務の削減**につながった。



導入した主なICTシステム

	統合型支援システム
内容	あらゆる情報を一元管理 ・ 保護者がアプリから出欠連絡 ・ 保育料の計算、請求業務
イメージ図	
導入時期	平成29年度頃 (令和元年度に一部機能追加)
初期導入費用	特になし
ランニングコスト	月額40,000円程度
同時に購入した機器等	特になし

副園長・職員インタビュー



- ・ 初めてシステムを導入したのは平成20年度頃。当時は保護者へのお知らせを一斉メールで送信できるものを使用していました。
- ・ 最近では様々なシステムが販売されているので、比較しながら、自分たちに使いやすいシステムの導入を進めています。
- ・ ICT化は便利な一方で、情報漏洩のリスクがつきものです。
- ・ 法人内で作成した情報管理のマニュアルを研修会で説明し、教職員一人ひとりが責任を持って情報管理ができる体制づくりを強化しています。

5 結びに

令和元年10月から幼児教育・保育の無償化が始まり、預かり保育の利用時間の管理等、各園における業務量が増加しています。

インタビューさせていただいた幼稚園の中にも、預かり保育に係る業務の煩雑化を契機として、ICT化支援システムの導入を決めたところが多くありました。

また、登園管理の効率化を図りたいためにシステムを導入したという幼稚園も多くありました。

実際にシステムを導入した幼稚園からは、「朝の欠席連絡の電話対応業務が減り、子どもと向き合う時間が増えた。」「請求業務まで一括管理でき、現金徴収の業務から解放された」といった声が届いています。

本紙でも紹介していますが、園バスの位置情報サービスや、指導要録等の作成支援システム、保護者への一斉メール配信システム等々、近年はシステムによりICT化できる業務が増えてきました。

幼稚園における園務のICT化はどのようなものか、どのようなメリットがあるか等、各園において「ICT化システムの導入による園務改善」について検討いただく材料として、本紙をご活用ください。

(参考)

令和4年度私立幼稚園ICT化支援補助金

※令和4年度の内容を掲載しています。

■補助対象施設

県内学校法人立私立幼稚園
(幼稚園型認定こども園を含む。)

■補助対象経費

- ・園務支援システムの導入に伴う購入費、改修費
- ・端末や備品等の購入費
- ・端末設置や通信環境整備にかかる工事費、通信費等

■補助基準額

- ①補助基準額
1 施設当たり1,000千円
- ②補助率
国3/4、事業者1/4

令和5年4月1日発行

編集・発行
埼玉県総務部学事課 幼稚園担当
〒330-9301
さいたま市浦和区高砂3-15-1
電話 048-830-2560

